

平成28年度における新たな取り組みについて

①人材育成研修について

②地域公共交通再編実施計画について

県職員はじめ公共交通に関わる人材の育成

地域を支える公共交通をはじめとした交通サービスを移動ニーズに応じたものとするため、奈良県地域交通改善協議会の取組を進めているところである。

しかし、交通事業者のみに公共交通を任せるとは限界が来ており、今後、市町村や県民などとも連携して、県が積極的に移動ニーズに応じた交通サービスの提供体制を構築することが求められる。

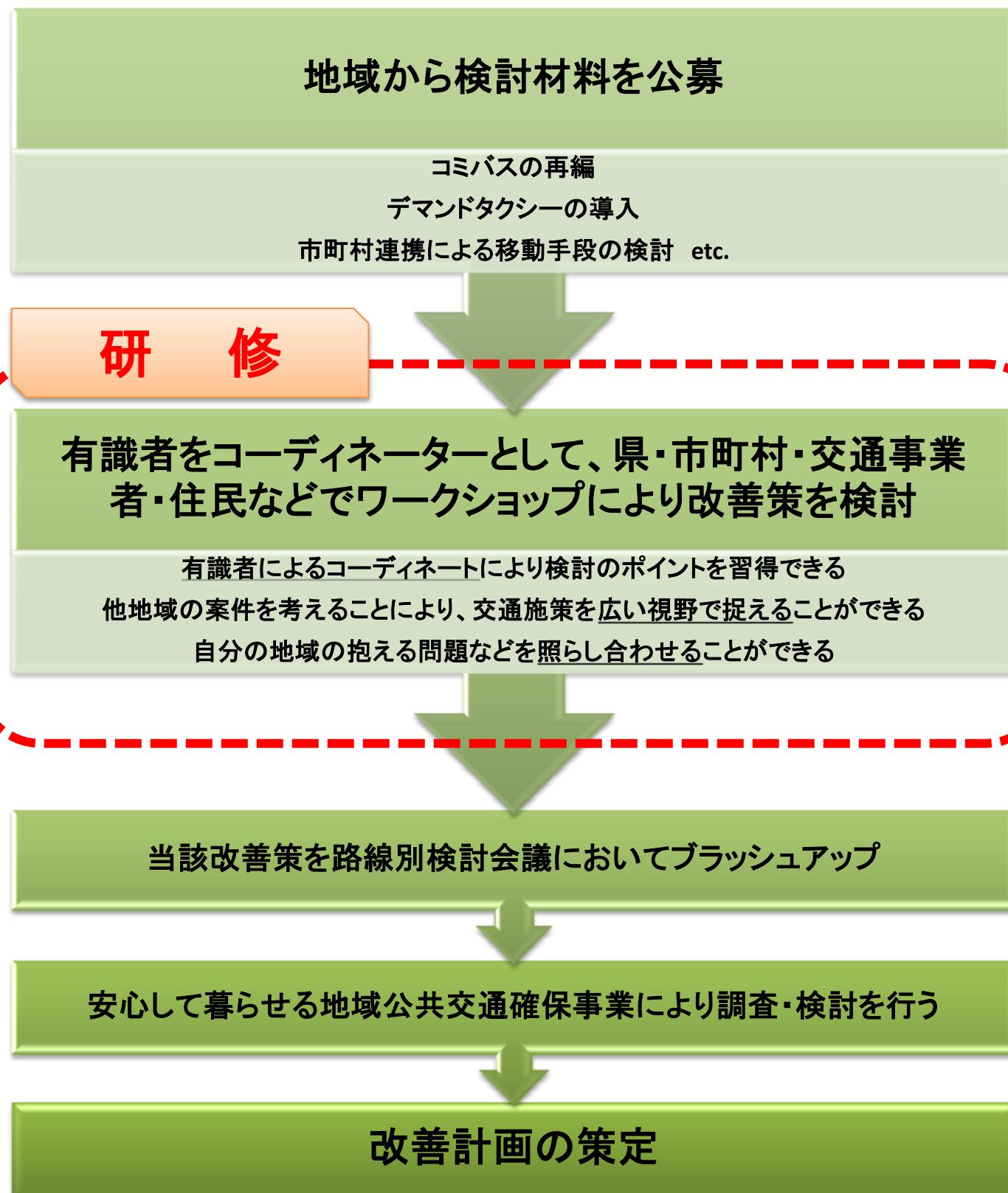
これまでも、県は、交通行政については、バス事業者への補助といった事柄などについて国に任せることが多かった。

今後、県が交通行政を担うためには、移動ニーズが派生需要という特性を有していることを十分に認識し、その根源となる多様な社会経済活動を踏まえた他の行政分野についても熟知しておく必要がある。

このため、県の他の行政分野の取組も把握しながら、県の交通行政を担う行政職員や県民、民間事業者などを養成する人材の育成のあり方について、検討を行う。

～ 公共交通基本計画案より ～

人材育成研修を取り入れた業務フロー例



再編実施計画のイメージ(A案) 中部A 桜井飛鳥線

◎現状・課題

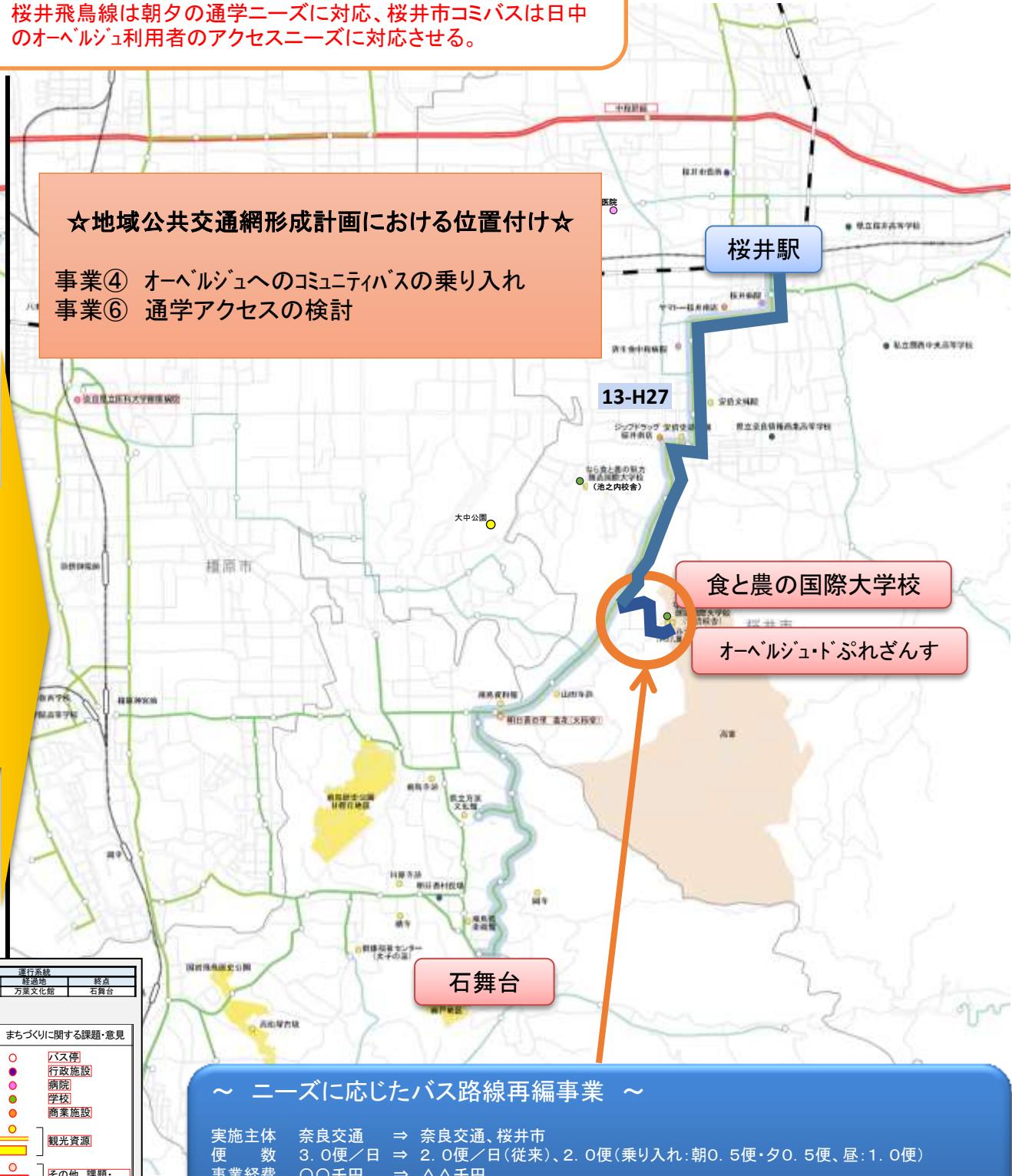
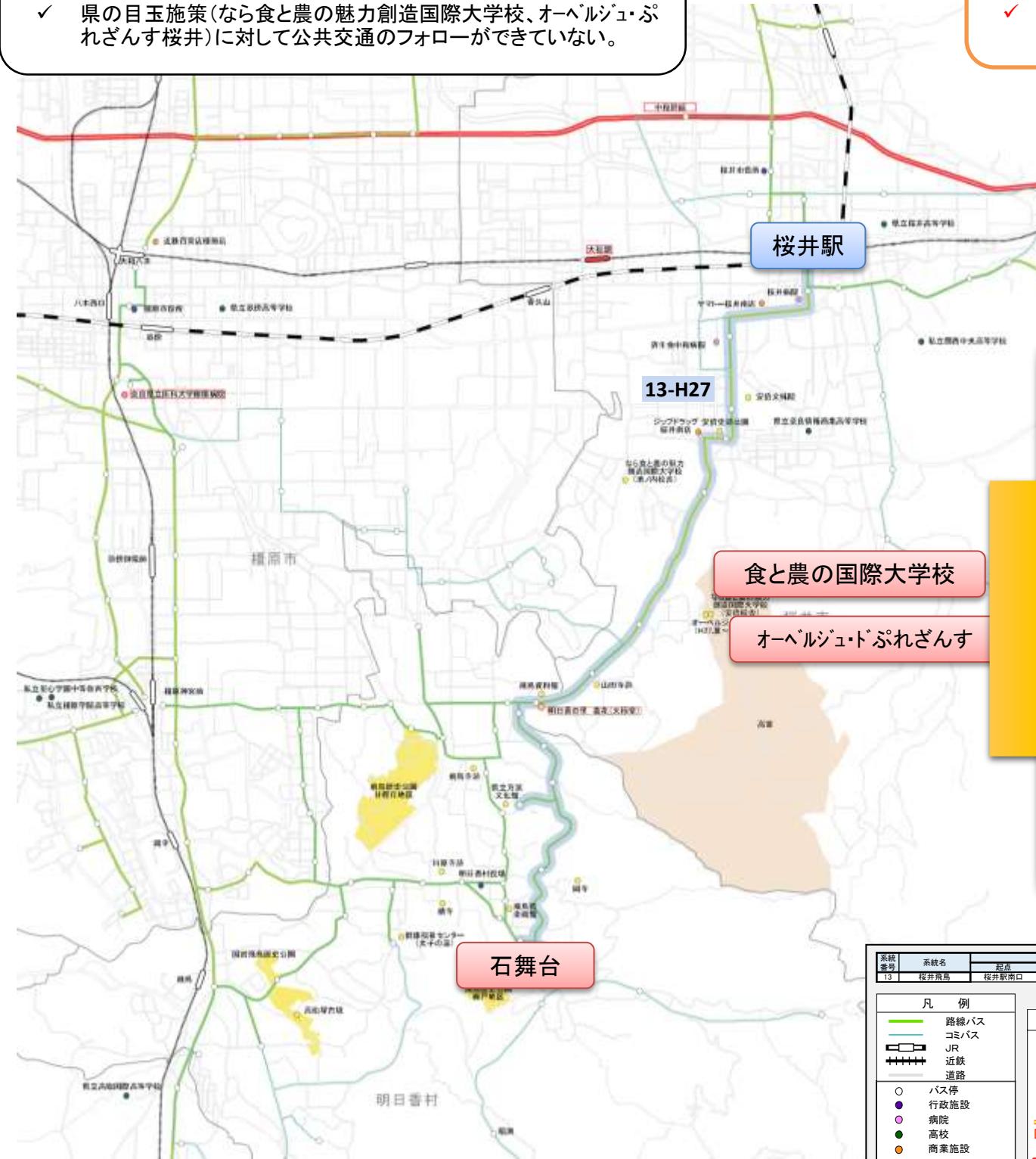
- ✓ 桜井飛鳥線について、H26.10にダイヤ等を改善したが、想定ほど利用者数が増えていないため、行政負担が増えている状況。
- ✓ 県の目玉施策(なら食と農の魅力創造国際大学校、オーベルジュ・ぷれざんす桜井)に対して公共交通のフォローができていない。

◎対応案

- ✓ 桜井飛鳥線を一部当該施設に乗り入れさせるとともに、桜井市コミバスについて、桜井駅から当該施設への路線を新設する。
- ✓ 桜井飛鳥線は朝夕の通学ニーズに対応、桜井市コミバスは日中のオーベルジュ利用者のアクセスニーズに対応させる。

☆地域公共交通網形成計画における位置付け☆

- 事業④ オーベルジュへのコミュニティバスの乗り入れ
- 事業⑥ 通学アクセスの検討



食と農の国際大学校
オーベルジュ・ぷれざんす

食と農の国際大学校
オーベルジュ・ぷれざんす

石舞台

石舞台

系統番号	系統名	運行系統
13	桜井飛鳥	桜井駅南口 万葉文化館 石舞台

凡 例	まちづくりに関する課題・意見
— 路線バス	○ バス停
— コミバス	● 行政施設
— JR	● 病院
— 近鉄	● 学校
— 道路	● 商業施設
○ バス停	● 観光資源
● 行政施設	○ その他、課題・意見のあった箇所
● 病院	
● 高校	
● 商業施設	
● 観光資源	
○ その他箇所	

系統番号	施策・意向	問題・課題	まちづくりアイデア
13-H27			

※-H26はH26.10に変更した系統

～ ニーズに応じたバス路線再編事業 ～

実施主体 奈良交通 ⇒ 奈良交通、桜井市
 便数 3.0便/日 ⇒ 2.0便/日(従来)、2.0便(乗り入れ:朝0.5便・夕0.5便、昼:1.0便)
 事業経費 ○〇千円 ⇒ △△千円
 経路 奈良交通:桜井駅南口～石舞台 ⇒ 奈良交通(朝・夕):桜井駅南口～乗り入れ～石舞台
 桜井市コミバス(昼):桜井駅南口～乗り入れ

◎現状・課題

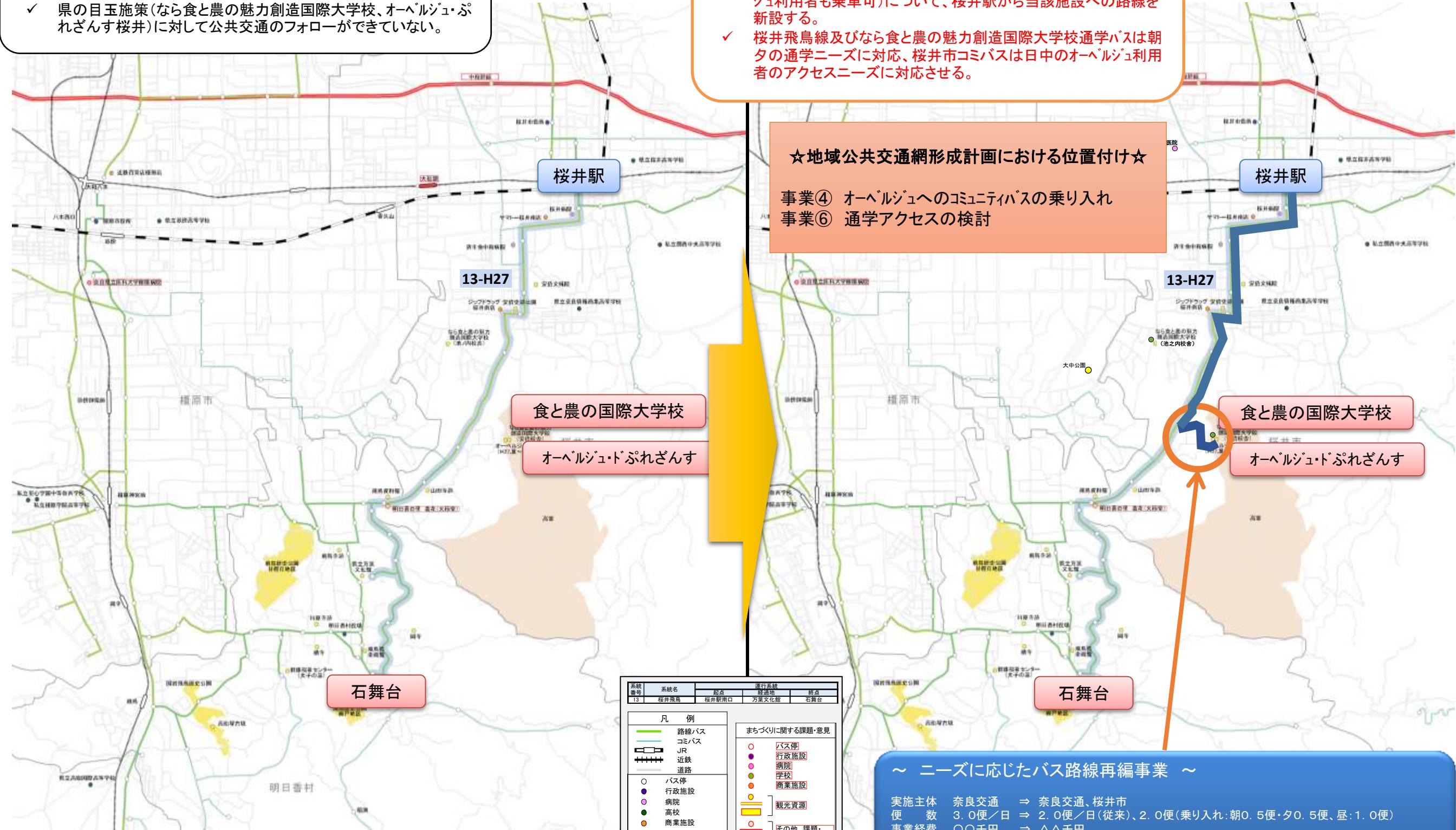
- ✓ 桜井飛鳥線について、H26.10にダイヤ等を改善したが、想定ほど利用者数が増えていないため、行政負担が増えている状況。
- ✓ 県の目玉施策(なら食と農の魅力創造国際大学校、オーベルジュ・ぷれざんす桜井)に対して公共交通のフォローができていない。

◎対応案

- ✓ 桜井飛鳥線を一部当該施設に乗り入れさせるとともに、桜井市コミバス及びびなら食と農の魅力創造国際大学校通学バス(オーベルジュ利用者も乗車可)について、桜井駅から当該施設への路線を新設する。
- ✓ 桜井飛鳥線及びびなら食と農の魅力創造国際大学校通学バスは朝夕の通学ニーズに対応、桜井市コミバスは日中のオーベルジュ利用者のアクセスニーズに対応させる。

☆地域公共交通網形成計画における位置付け☆

- 事業④ オーベルジュへのコミュニティバスの乗り入れ
- 事業⑥ 通学アクセスの検討



食と農の国際大学校

オーベルジュ・ぷれざんす

石舞台

食と農の国際大学校

オーベルジュ・ぷれざんす

石舞台

系統番号	系統名	運行系統	起点	経路	終点
13	桜井飛鳥	方美文化館	桜井駅南口	方美文化館	石舞台

凡例	まちづくりに関する課題・意見
緑線: 路線バス	バス停
黒線: コミバス	行政施設
黒線+横線: JR	病院
黒線+縦線: 近鉄	学校
黒線+斜線: 道路	商業施設
○: バス停	観光資源
●: 行政施設	その他、課題・意見のあった箇所
●: 病院	
●: 高校	
●: 商業施設	
●: 観光資源	
●: その他箇所	

系統番号	施策・意向
13-H27	問題・課題

過去の路線別検討会議での意見

まちづくりアイデア

～ ニーズに応じたバス路線再編事業 ～

実施主体 奈良交通 ⇒ 奈良交通、桜井市

便数 3.0便/日 ⇒ 2.0便/日(従来)、2.0便(乗り入れ:朝0.5便・夕0.5便、昼:1.0便)

事業経費 ○〇千円 ⇒ △△千円

経路 奈良交通:桜井駅南口～石舞台 ⇒ 奈良交通(朝・夕):桜井駅南口～乗り入れ～石舞台
桜井市コミバス(昼):桜井駅南口～乗り入れ

◎現状・課題

- ✓ 奥宇陀線について、H26.10にダイヤ等を改善したが、想定ほど利用者数が増えていないため、行政負担が増えている状況。
- ✓ 曾爾高原へのアクセスについて、冬期は名張駅から三重交通のみ、夏期は榛原駅から奈良交通のみとなっており、利便性が悪いものとなっている。

◎対応案

- ✓ 奥宇陀線について、路線バスの代替として連携コミバスを運行することにより、住民に「みんなで走らせるバス」という認識を持ってもらい利用啓発を図る。
- ✓ 曾爾高原へのアクセスについて、夏期・冬期とも名張駅・榛原駅両駅からアクセスできるようにし、利用者がルートを選べるようにする。



系統番号	系統名	起点	運行系統	終点
6	奥宇陀	榛原駅	榛原駅	曾爾村役場前
103	曾爾香落溪	名張駅前	大良路	山形西
104	名張奥津	名張駅前	滝ノ原口	敦津

凡例	まちづくりに関する課題・意見
路線バス	バス停
コミバス	行政施設
鉄道	病院
道路	学校
バス停	商業施設
行政施設	観光資源
病院	その他、課題・意見のあった箇所
高校	過去の路線別検討会議での意見
商業施設	施策・意向
観光資源	問題・課題
その他箇所	まちづくりアイデア

☆地域公共交通網形成計画における位置付け☆

- 事業① 曾爾高原への路線バス乗り入れ検討
- 事業③ 連携コミュニティバス導入の検討



宇陀市・曾爾村連携コミバス
宇陀市・曾爾村連携コミバス (冬期・夏期臨時便)
三重交通
三重交通(冬期・夏期臨時便)
奈良交通(冬期・夏期臨時便)

～ 路線バス代替連携コミバス運行事業 ～

実施主体 奈良交通 → 宇陀市・曾爾村連携協議会
 便数 4.5便/日 → ○○便/日
 事業経費 ○○千円 → △△千円
 経路 奈良交通: 榛原駅～曾爾村役場 → 連携協議会: 榛原駅～曾爾村役場
 三重交通: 名張駅～山形西 → 名張駅～曾爾村役場(短縮)

～ 曾爾高原観光促進事業(冬期・夏期) ～

バス運営主体 (冬期)三重交通・(夏期)奈良交通 → (冬期・夏期)三重交通、奈良交通、宇陀市・曾爾村連携協議会
 便数 平日1便/日、日祝2便/日 → 平日3便/日、日祝6便/日
 事業経費 ○○千円 → △△千円
 経路 (冬期)三重交通: 名張駅～曾爾高原 → 三重交通: 名張駅～曾爾高原
 (夏期)奈良交通: 榛原駅～曾爾高原 → 奈良交通: 榛原駅～曾爾高原
 連携協議会: 榛原駅～曾爾高原